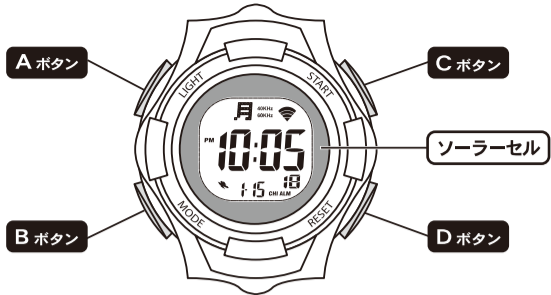


各ボタンについて

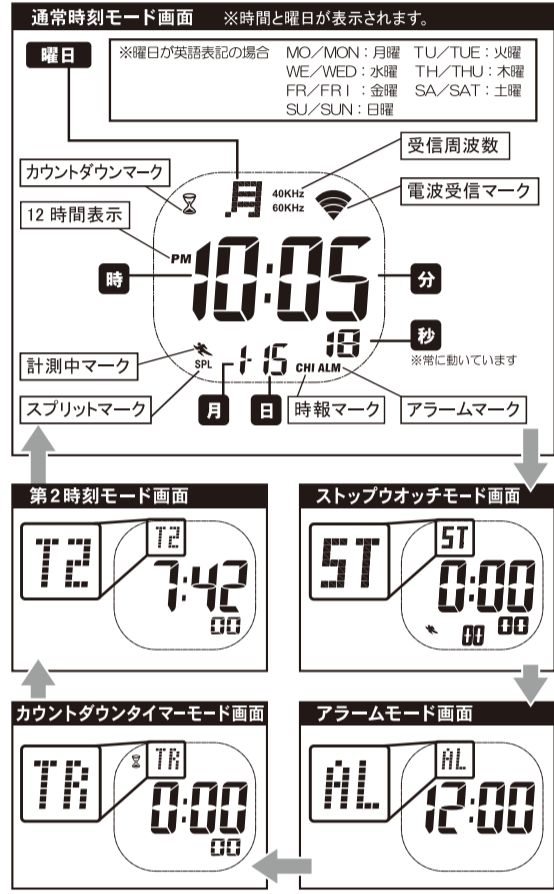
本説明書に出てくる各ボタンは、下図を参照してください。



本書は共通取扱説明書です。全ての図は説明用で、実際の状態を表したものではありません。デザインや数字の表示スタイルなどが実際の製品とは異なりますので、あらかじめご了承ください。

各モード画面

この時計はBボタンの操作でモード表示が切り替わります。見分けるには画面上部を見てください。図の順番で各モード画面へ切り替わります。



電波受信による時刻設定

●自動受信について

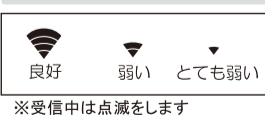
自動受信による時刻合わせは、毎日午前12時、午前4時、午前6時頃に行なわれるように設定されています。まず40KHzの電波信号を探します。約5分間受信できない場合は、次に60KHzの電波信号を探します。一度受信に成功すると、電波受信マークが表示され、その日はそれ以上の自動受信をしません。自動受信に失敗すると、次回の自動受信は翌日の午前12時、午前4時、午前6時頃になります。自動受信による時刻合わせから次回の自動受信までは、内臓クォーツの精度で作動します。
※自動受信機能はON/OFF設定の切り替えはできません。

●手動受信について

自動受信以外に、手動で電波受信をして時刻を合わせる時に使用します。受信中は電波の良好な場所で受信を行なってください。

- 「通常時刻モード画面」で[C]ボタンを長押しすると、手動受信による時刻合わせが始まります。
- 電波受信マークが点滅を始め、40KHzの電波信号を探します。約5分間受信できない場合は、次に60KHzの電波信号を探します。受信が成功すると電波受信マークが表示されます。受信を途中で止めたい場合は、Cボタンを押します。

電波受信中の受信状況



※受信中は点滅をします

受信結果表示



※受信に失敗するとマークは表示されません

リセット機能について

A～Dのすべてのボタンを同時に押し、画面が全表示した後にボタンを離すと、リセットされます。

※この操作は取扱説明書通りに操作が出来なくなった時のみお試しください。



時刻/日付の合わせ方【手動】

電波受信が困難な場合、手動で時刻/日付を合わせることができます。天候の状況により受信ができない時や、地下などの電波が届かない場所で時刻を合わせる時にご使用ください。

- 「通常時刻モード画面」で[D]ボタンを長押しして、「12/24時間表示」を点滅させます。
- [C]ボタンで表示の切替え、数値の設定をしてください。
- [B]ボタンを押すごとに設定箇所の点滅が下記の順に切り替わります。設定箇所を選び、[C]ボタンで数値などの設定をします。※秒は、00秒以外は設定できません。

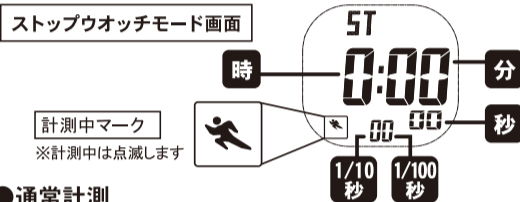


- 設定終了後は、[D]ボタンを押して設定終了します。

- 数値の設定中にCボタンを長押しすると秒以外の数値は早送りできます。
- どの段階でもDボタンを1回押すと設定が終了して通常時刻に戻ります。
- 実際には設定中も時刻は進んでいきます。
- 年・月・日が正しければ、曜日は自動で表示されます。
- しばらく操作しないと設定状態が解除されます。その場合はもう一度最初からやり直してください。

ストップウォッチの使い方

ストップウォッチ機能は、通常計測とスプリットタイム計測が可能です。最大計測時間を経過すると、表示が00時00分00秒00になり、カウントを継続します。



●通常計測

- 「通常時刻モード画面」で[B]ボタンを1回押しして、ストップウォッチモードを表示させます。→「ST」が表示されます
- [C]ボタンを押して、カウントをスタートします。
- [C]ボタンを押すと、計測がストップします。
- [D]ボタンを押して、計測時間をリセットします。

●スプリットタイム計測

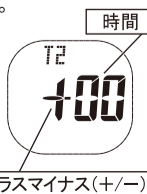
スタートからゴールまでの計測をしながら途中経過の記録を確認できる計測です

- 「通常時刻モード画面」で[B]ボタンを1回押しして、ストップウォッチモードを表示させます。→「ST」が表示されます
- [C]ボタンを押して、カウントをスタートします。
- [D]ボタンを押して、画面を一時停止します。(計測は継続中)
→「計測中マークの下にスプリットマークが表示されます」
スプリットマークが表示(計測中)
- [D]ボタンを押すと、画面が動きます。(計測画面の停止/再開は何回でも可能)
→「スプリットマークが消えます」
- [C]ボタンを押すと、計測がストップします。
- [D]ボタンを押して、計測時間をリセットします。

第2時刻について

・通常時刻とは別に、もう一つの時刻を表示する事ができます。海外旅行などの使用に便利です。
・ロンドンのグリニッジ標準時(GMT)を基準とし、海外等の時差のある場所の時刻を設定することができます。右記のGMTタイムゾーン一覧表を参考にして時差を設定してください。
・秒/分は通常時刻のものが表示されます。第2時刻では時差の設定のみ可能で、秒/分の設定はできません。
・第2時刻は特に設定しなくても時計の使用には支障ありません。必要な場合のみ設定してお使いください。

- 「通常時刻モード画面」で[B]ボタンを4回押しして、第2時刻モードを表示させます。→「T2」が表示されます
- [D]ボタンを長押しして、「+/-」を点滅させます。
- [C]ボタンを押して、「+/-」を選択します。
- [B]ボタンを押して数字を点滅させます。
- [C]ボタンで数値を設定します。
- [D]ボタンを押して設定終了します。



■数値の設定中にCボタンを長押しすると数値は早送りできます。

アラーム設定

設定した時刻に毎日アラームが鳴らすことができます。

- 「通常時刻モード画面」で[B]ボタンを2回押しして、アラームモードを表示させます。→「AL」が表示されます
- [D]ボタンを長押しして「時」を点滅させます。
- [D]ボタンで数値の設定をします。[C]ボタンを押すごとに設定箇所の点滅が切り替わります。
- [D]ボタンを押して設定終了します。

■数値の設定中にCボタンを長押しすると数値は早送りできます。

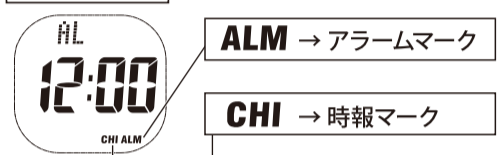
アラーム音の止め方

アラーム音はA～Dいずれかのボタンを押すと止まりますが、放置しても約30秒後に自動的に止まります。アラーム・時報は毎日鳴ります。鳴らせたくないときはOFFにしてください。

アラーム・時報のON/OFF設定

アラームモード画面でCボタンを押すとON/OFF設定の切り替えができます。アラーム・時報マークが無い状態はアラーム・時報が鳴りません。アラーム・時報は毎日鳴ります。鳴らせたくないときはOFFにしてください。

アラームモード画面



カウントダウンタイマーについて

カウントダウンが0になるとピープ音が鳴ります。約30秒間鳴り続けますが、A～Dいずれかのボタンを押しても止める事ができます。

●時間の設定

- 「通常時刻モード画面」で[B]ボタンを3回押しして、カウントダウンモードを表示させます。→「TR」が表示されます
- [D]ボタンを長押しして、「時」を点滅させます。
- [C]ボタンを押して、「時」の数値を設定します。
- [B]ボタンを押して、「分」を点滅させます。
- [C]ボタンを押して、「分」の数値を設定します。
- [D]ボタンを押して設定終了します。

●使用方法

時間の設定を行なったら、[C]ボタンでカウントダウンをスタートします。→「カウントダウンマーク」が点滅します。[C]ボタンで一時停止できます。一時停止を解除するにはもう一度[C]ボタンを押してください。

■数値の設定中にCボタンを長押しすると数値は早送りできます。

- カウントアップ機能はありません。
- 最大設定時間は23時間59分です。
- カウントダウンの最中にBボタンを押すと通常時刻モードになりますが、カウントダウンは継続しています。

ELライト

Aボタンを一回押しすると、ELライトが点灯し、数秒後に自動的に消灯します。

- ・Aボタンを押したときに操作音はしません。
- ・ELライトを多用すると電池寿命が短くなります。
- ・ELライトは電池の電圧が低くなると明るさが低下します。また、点灯時間の累積で徐々に明るさが弱くなる特性を持っています。

<GMTタイムゾーン一覧表>

GMTとの時差	GMTとの時差
+12h	ニュージーランド
+10h	シドニー、ブリスベン、キャンベラ、メルボルン
+9h30m	ダーウィン、アデレード
+9h	日本、韓国
+8h	マレーシア、シンガポール、中国、フィリピン、バース
+7h	タイ、ベトナム
+5h30m	インド
+3h	モスクワ
+2h	東ヨーロッパ地域標準時
+1h	中央ヨーロッパ地域標準時
±0	グリニッジ標準時、西ヨーロッパ地域標準時
-3h	アルゼンチン
-4h	ヴェネズエラ、チリ
-5h	アメリカ東海岸標準時
-6h	アメリカ中央海岸標準時
-7h	アメリカ山岳標準時
-8h	アメリカ西海岸標準時
-9h	アラスカ
-10h	ハワイ

●GMTとは Greenwich Mean Time の略で、グリニッジ標準時です。

●一覧表の時差はGMTとの時差で、時計の通常時刻との時差ではありません。